

「目が離せない中国のスクラップ輸出」(その3)

目 次

1. 2017年9月の鉄スクラップ輸出	
(1) 輸血量全体	1
(2) 輸出品種	1
(3) 輸出向け先	2
2. 日本の輸出先との関係	3
3. 香港の輸出入	3
4. 3国間の輸出入バランス	4
5. 9月の中国ビレット輸出	5
6. 1-9月累計鋼材輸出	5
7. 韓国の状況	6
8. ベトナムの輸出入	6

2017年11月6日

株鉄リサイクリング・リサーチ

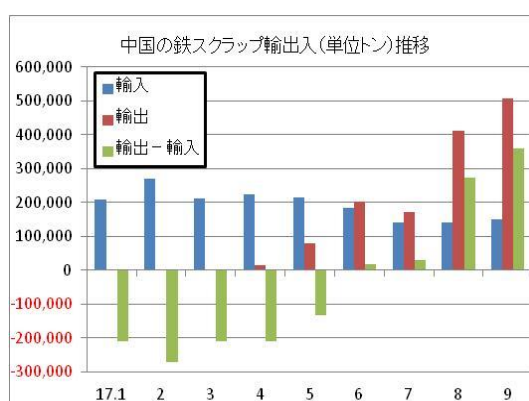
代表取締役 林 誠一

中国の鉄スクラップ輸出は6月の20万tから7月は17万tへ減少したが、8月は41万tに増加し、さらに9月は51万tとなった。この結果1-9月累計は139万tである。また、向先は日本の市場である東南アジアを主力としながら中近東、アフリカに広がってきている。一方、9月のビレット輸出は40万tと推定され、鉄スクラップ輸出が初めてビレット輸出を上回った。

1. 2017年9月の鉄スクラップ輸出

(1) 輸出货量全体

9月の輸出货量は50万8,121tとなった（中国「海関統計」7204類計）。輸入は14万8,500tなので約36万tの輸出超過である。超過幅は6月以来拡大を続けている（右図）。背景に17年6月末の「地条鋼」排除により国内スクラップ需給の緩みが継続していることが想定される。このまま推移すれば17年計は、10月～12月を50万t前後として加えると、300万t際となると見込まれる。このレベルはオーストラリアの16年輸出货量160万tを超え、アジア・太平洋地区では日本に次ぐ第2位となる。

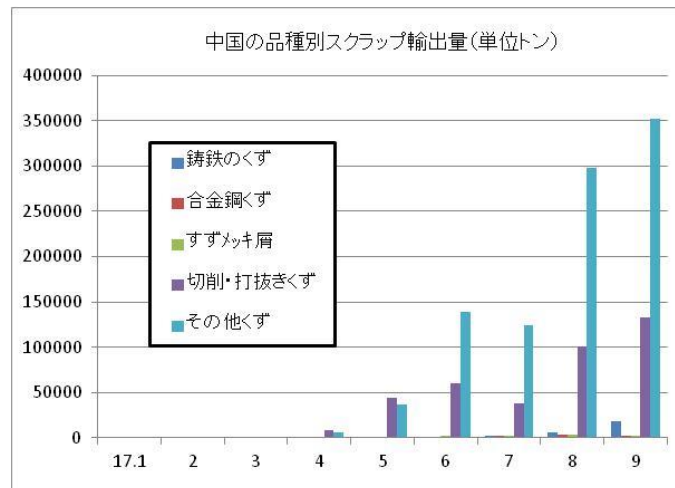


(2) 9月の輸出品目

50.8万tのうち「その他くず」が35.2万t（全体の約70%）、「切削・打ち抜きくず」が13.2万t（同26%）でありこの2品目が主力である点に変化は起きていない。前月比の伸びは、鑄鉄くずおよび切削・打ち抜きくずの増加が目立つ。

中国スクラップ輸出货量						単位トン,%
	鑄鉄のくず	合金鋼くず	すずめき屑	切削・打ち抜きくず	その他くず	合計
17.1		35		24	8	67
2		0		0	0	0
3		53		67	533	653
4		0		8,994	6,366	15,360
5	95	35		43,897	36,316	80,343
6	212	192	2,518	59,692	139,067	201,681
7	1,742	2,757	2,704	38,332	124,803	170,240
8	6,110	3,307	3,149	100,935	297,720	411,221
9	18,677	2,065	2,590	132,501	352,288	508,121
前月比	205.7	-37.6	-17.8	31.3	18.3	23.6

データ: 中国「海関統計」(日本鉄鋼連盟)



(3) 輸出向先

50.8 万 t の向け先はインドネシア 16.2 万 t (全体の 31.9%)、タイ 12.6 万 t (同 24.9%)、ベトナム 6.8 万 t (同 13.4%)、台湾 3.9 万 t (同 7.7%)、インド 2.8 万 t (同 5.5%) 等であり、上位 5 カ国が約 83% を占めるものの向け先国数は 8 月の 17 カ国から 19 カ国 へ拡大した。特に日本が新市場として開発途上であるインドには 2.8 万 t が輸出され、うち切削・打抜きくず 1.4 万 t、その他くず 1.2 万 t である。バングラディッシュには 1.8 万 t うち切削・打抜きくず 1.6 万 t が輸出されている。また 8 月はトルコ

9月の中国スクラップ輸出										単位トン、ドル/t		計	
	鉄のくず		合金鋼くず		すずメッキくず		切削・打抜きくず		その他くず				
	7241000	単価	72042100	単価	72042900	単価	72043000	単価	72044100	単価	72044900		単価
中国													
日本			22	820									22
香港							368	91			18,203	124	18,571
韓国									997	210	9,758	184	10,755
台湾	343	140					1,902	79	1,973	120	34,517	81	38,735
モザンビーク													0
シンガポール	257	170							560	156	3,077	107	3,894
ベトナム					785	151			17,856	125	49,459	118	68,100
マレーシア					880	52			8,392	124	20,281	88	29,553
インドネシア	1,519	72					320	97	46,757	122	113,452	103	162,048
タイ	13,250	47							22,752	131	89,955	69	125,957
ミャンマー											53	58	53
カンボジア													0
フィリピン													0
インド	1,625	201	326	153					14,127	139	11,740	80	27,818
パキスタン									524	121	276	70	800
バングラディッシュ	1,394	176							15,764	126	1,009	121	18,167
オマーン	289	170							2,774	138			3,063
サウジアラビア													0
米国			38	820									38
イギリス			14	824									14
オランダ													0
ベルギー													0
トルコ													0
エクアドル											507	120	507
エジプト											1	30	1
ケニア									25	280			25
USE													0
計	18,677		400		1,665		2,590		132,501		352,288		508,121

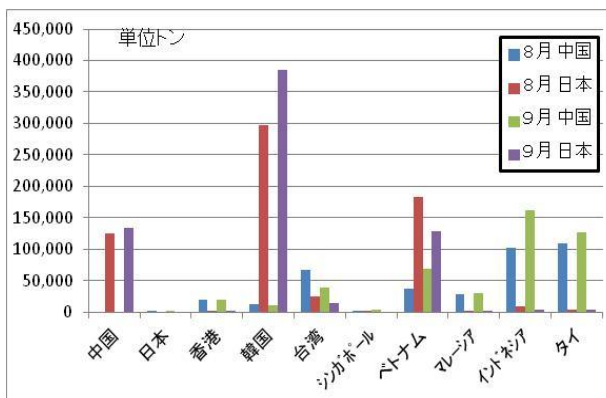
データ：中国「海関統計」、日本は財務省「通関統計」

が、9月にはエクアドル、エジプト、ケニアが初輸出先である。韓国のその他くず1万t 184ドル/tは中国国内では中位くず（3段階グレードのうち真ん中。統廃と呼ばれる）価格に類しており、「雑品」由来でない国内くずが輸出に出てきていると想定される。

2. 日本の輸出先との関係

9月の日本の鉄スクラップ輸出量は 69.8万t となり、前月の 72.7万t を若干下回ったものの 70万t に近い高レベルを維持した。主力の韓国向けが 38.5万t と今年最大となったことが寄与している。しかし他の向先を中国と比較すると、東南アジア、西アジア等すでに中国が上回っており、油断はならない。下表に8月及び9月の全向先を示した。

8月と9月の日中向先主要国



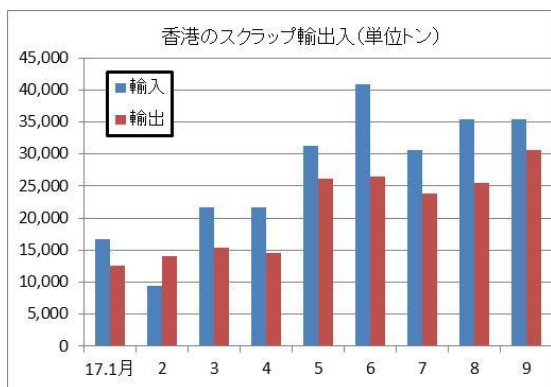
日本と中国の全輸出向先

	8月		9月		単位 トン
	中国	日本	中国	日本	
中国		124,498		133,918	
日本	65		22		
香港	20,011	130	18,571	182	
韓国	11,642	297,069	10,755	385,199	
台湾	67,586	24,378	38,735	14,669	
シンガポール	1,412	19	3,894	0	
ベトナム	37,225	182,400	68,100	129,085	
マレーシア	28,848	601	29,553	197	
インドネシア	102,346	9,087	162,048	4,282	
タイ	109,882	3,884	125,957	2,846	
ミャンマー	94	0	53	0	
カンボジア	0	0	0	20	
フィリピン	0	0	0	20	
インド	23,064	973	27,818	3,793	
パキスタン	2,933	745	800	665	
バングラデシュ	3,908	42,502	18,167	23,250	
オマーン	1,925	0	3,063	0	
サウジアラビア	0	0	0	26	
米国	0	40,368	38	27	
イギリス	11	13	14	18	
オランダ	0	0	0	14	
ベルギー	0	0	0	21	
トルコ	154	0	0	0	
エクアドル	0	25	507	0	
エジプト	0	16	1	0	
ケニア	0	0	25	0	
USE	115	0	0	0	
計	411,221	726,708	508,121	698,232	

3. 香港の輸出入

香港の9月の輸入量は 3.5万t、輸出は 3.1万t だった。輸入ソース最大は中国であり全体の 43%を占める。次ぎがマカオ 34%なのでソースの8割近くが中国材と言え、

3位米国は10%を切る。なお輸出入差0.4万tは輸出船待ちか国内使用と想定され、ほとんどは輸出するために輸入している状態と考えられる。輸出量は5月より1万t程度増加して2.6万t～3万tで推移しているが、中国以外の他国向けが増えており、9月は485トンが日本へ輸出された（備考；中国向けはステンレスくずを主としている）。



	輸入	ウチ中国	輸出	ウチ中国	他国へ輸出
17.1月	16,648	1,442	12,626	7,414	5,212
2	9,399	905	14,115	10,477	3,638
3	21,597	2,424	15,417	12,037	3,380
4	21,698	7,396	14,588	10,129	4,459
5	31,318	15,237	26,174	13,281	12,893
6	40,834	26,451	26,407	11,945	14,462
7	30,669	19,673	23,794	9,967	13,827
8	35,364	26,829	25,537	13,968	11,569
9	35,364	15,252	30,649	12,152	18,497

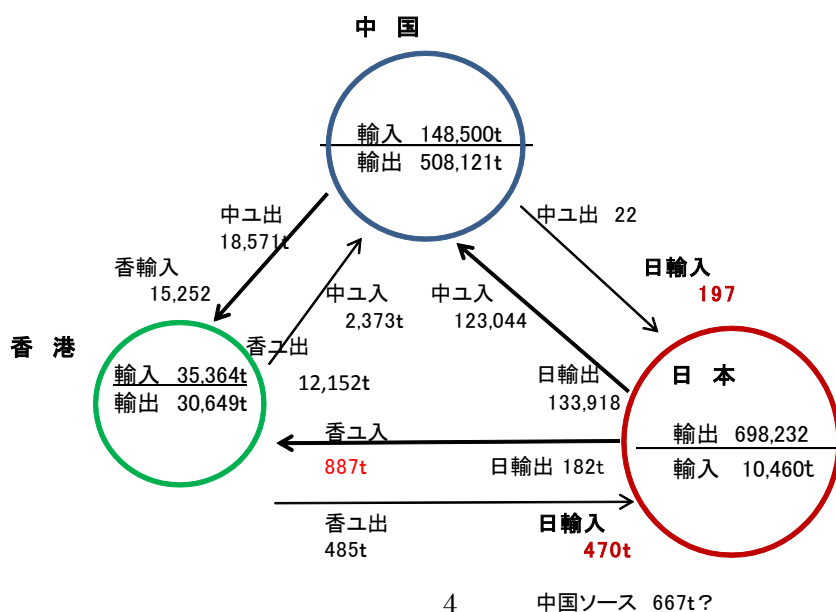
データ：香港スクラップ輸出入（日本鉄鋼連盟）

4. 3国間の鉄スクラップ輸出入バランス

日本から中国への輸出力133,918tに対して中国の輸入量は123,044tであり、ほぼ整合する。一方、中国の日本向け輸出力22tは、日本の中国からの輸入量の197tと差がある。香港から日本へ485t輸出があり、かつ日本は香港から470t輸入しているので、9月の中国ソースは667tと把握すべきであろう。しかし日本の香港向け輸出力182tは香港では日本より887t輸入したことになっており不整合がある。

中国、香港間は、中国の香港向け輸出力18,571tは、香港の中国からの輸入15,252tとほぼ整合するが、香港の中国向け輸出力12,152tと中国の香港からの輸入量2,373tは整合していない。中国に本社があり香港に支所のある流通関連企業の場合のやり取りの問題が考えられ、量が多くなった場合、現状把握に課題が残りそうだ。

2017年9月の3国間スクラップ輸出入(単位トン)



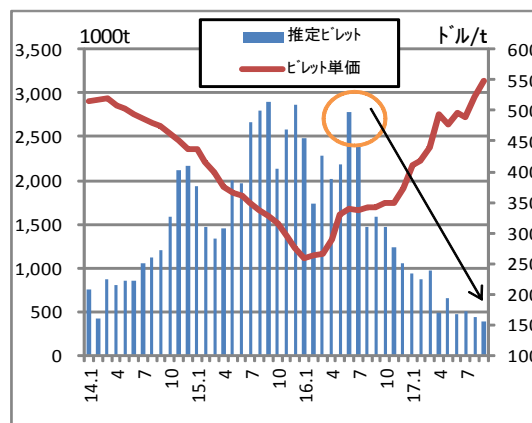
5. 9月の中国ビレット輸出（推定）

9月のビレット輸出は40万tと推定される。17年1-9月累計は573万tとなり前年同期を約70%下回る。10-12月を引き続き40万t程度で推移すると仮定すると、17年計は700万t際となると見込まれる。

ビレット輸出は14年央より低価格な鉄鉱石により拡大し、15年は約2,600万t、16年は2,270万tが輸出された。この間、競合するスクラップ流通を抑制し相場にも影響を与え続けたが、16年6月の280万t/月をピークに減少に転じ、17年9月の40万tは増加前の水準である。

減少要因に①高位に上昇した鉄鉱石価格によりビレットの国際競争力を失った。②地条鋼廃止にともない、大手高炉メーカーの鉄筋棒鋼国内向け代替生産増が起き、余剰ビレット量が縮小している ③ベトナムをはじめとする貿易摩擦が起きている等が挙げられる。従って輸出復活は①鉄鉱石価格が16年初に見るように40ドル/t台まで低下すること ②内需が低迷し余剰ビレットが拡大すること 等であり、当分は再開する環境にないと推察される。

中国推定ビレット輸出月次推移



データ：中国海関統計より推定。ビレット単価は72283090の計。

6. 1-9月累計鋼材輸出

17年1-9月の棒鋼輸出794万tに占める推定ビレット（その他合金鋼棒鋼のうちのその他に内在）573万tは72.2%を占める。同率減少率でみた17年の見込みはビレット690万t、棒鋼輸出量920万tと想定される。

棒鋼輸出に占める推定ビレット

単位1000t、%

	棒鋼計	普通鋼	合金鋼	その他合金鋼		本物	ビレット	棒鋼内シェア
				ホロン鋼 72283010	72283090			
2014年	19,434	1,416	18,018	18	18,000	4,219	13,781	70.9
15年	31,605	1,281	30,324	18	30,306	4,219	26,087	82.5
16年	30,359	922	29,437	285	29,152	6,469	22,683	74.7
17.1-9	7,943	503	7,440	141	7,298	1,565	5,733	72.2
17見	9,199	279	8,920	86	8,833	1,960	6,873	74.7
前年比	-21,160	-643	-20,517	-199	-20,319	-4,509	-15,810	0
増減率	-69.7	-69.7	-69.7	-69.7	-69.7	-69.7	-69.7	

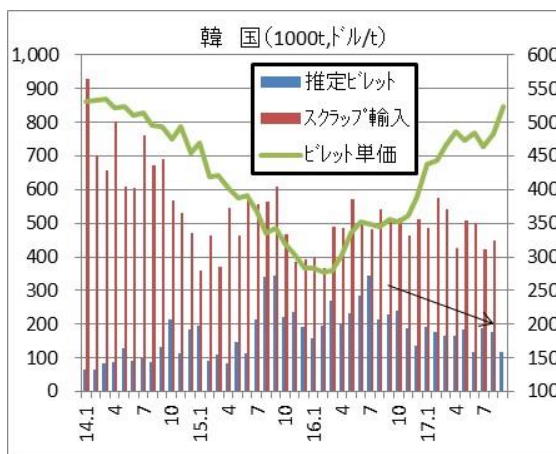
備考：棒鋼計は中国・海関統計より日本鉄鋼連盟が日本の輸出品目にアレンジ。

1-9月の鋼材輸出量は5,800万tとなり前年同期の8,370万tに比べて30.7%減の水準だが、減少量2,570万tのうち1,320万t（約51%）をビレット減が負ったことになる。今後もビレット輸出の再開がなく他の品種は同等とすれば、鋼材輸出の1億tレ

ベルは8,000万t～8,500万tに下方修正して見て行く必要があるだろう。

7. 韓国の状況

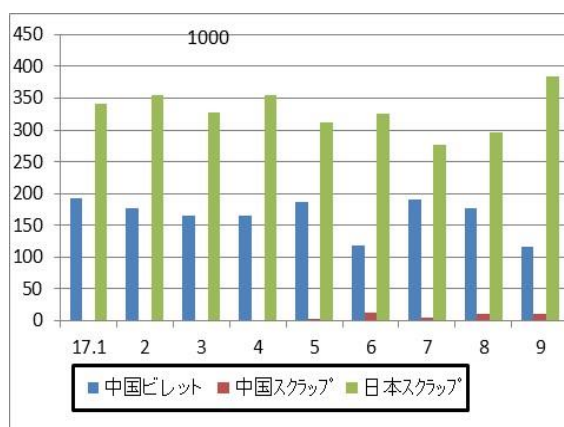
16年の粗鋼生産は6,860万tであり前年を1.6%下回った。17年1-9月は前年同期比3.5%増で推移していることから、17年は7,000万t前後となると見込まれる。17年1-8月のスクラップ輸入量は391万t、前年同期比1.7%増で推移している。こうしたなか中国ビレットの入着は16年7月の34.4万tをピークに減少し、17年9月は11.7万tとなった。ピーク比1/3のレベルである。代わって中国の鉄スクラップが入着してきており、5月の2,142トンは9月は10,755トンに拡大している。一方、日本の9月の韓国向け輸出は38.5万tであり、今のところ減少変化が現われていない。しかし、国内老廃くず発生増加から、新断、HS等高級くず志向が高まっております、H2クラスの先行きに楽観は許されない。



スクラップが入着してきており、5月の2,142トンは9月は10,755トンに拡大している。一方、日本の9月の韓国向け輸出は38.5万tであり、今のところ減少変化が現われていない。しかし、国内老廃くず発生増加から、新断、HS等高級くず志向が高まっております、H2クラスの先行きに楽観は許されない。

	韓国向け輸出量			単位1000t
	中国ビレット	中国スクラップ	日本スクラップ*	
17.1	192	0	341	
2	176	0	354	
3	165	0	327	
4	165	0	355	
5	186	2.1	312	
6	119	12.5	325	
7	190	4.9	277	
8	177	11.6	297	
9	117	10.7	385	

データ: 中国は海関統計、日本は財務省通関統計



8. ベトナムの輸出入

9月の中国ビレット入着は1.1万tとなり低位に変化は起きていない。16年3月に発令したセーフガードに守られている状態と言える。一方、鉄スクラップの輸入は35万t～40万t/月のレベルで推移しており、9月は43.2万tだった。うち中国のスクラップが著増中である。6月2.0万tは9月は



6.8 万 t に 3 倍増した。日本の 9 月のベトナム向けは 12.9 万 t（輸入シェア 19.4%）だった。17 年 1 - 9 月の粗鋼は 673 万 t (WSA 発表) となり前年同期の 373 万 t 比 80.6% 増で推移している。道路、鉄道、港湾等インフラ関連需要は強いという情報が入っており、鉄鋼需要増大によるスクラップ需要増も期待されるが、中国スクラップの動きから目が離せない。中国は海路、陸路とも南部地区からベトナムや東南アジアへ向かっていると見られ、40% の関税負担を掻い潜って入ってきているとの情報もある。

一方、ビレット輸入関税が up されて国内鉄鋼業が保護されていることにより、国内メーカーはビレットを輸出し、世界のビレット相場を引き上げていると聞く。セーフガード処置の乱用ではないだろうか？

ベトナム				単位1000t、%		
	粗鋼生産	スクラップ輸入	中国ビレット	中国スクラップ	日本の輸出	日本シェア
2016	5,154	4,003	747		1,978	38.4
17.1	767	293	10	0.0	117	15.2
2	759	360	11	0.0	112	14.7
3	888	379	24	0.0	130	14.7
4	799	330	19	3.6	77	9.6
5	755	407	22	5.6	112	14.8
6	730	347	16	19.7	92	12.6
7	685	334	12	10.2	177	25.8
8	685	488	16	37.2	182	26.6
9	665	432	11	68.1	129	19.4
17.1-9	6,733	3,370	140	144.4	1,127	16.7
17見込	8,977	4,493	187	193	1,503	
17見/16	74.2	12.2	-74.9		-24.0	

データ:粗鋼生産:WSA、輸入:ベトナム税関統計、中国:海関統計、日本:財務省通関統計

中国国内は地条鋼廃止や自動車 EV 化促進によるニードルコークス原料のひっ迫から、電極価格が 8 倍に高騰し、このためアーク電炉操業に影響を及ぼし始めているとの情報がある。政府は、転炉や既存電炉のスクラップ配合を増やし 2020 年までに、地条鋼が使用していた 7000 万 t 近くのスクラップを国内で消化するとしているが、当面、50 万 t/月程度のスクラップ輸出は続き、18 年は 600 万 t 台の輸出国に進展すると予測する。東南アジア等の輸出市場での中国との競争はますます増してくるだろう。

調査レポート NO 43

「目が離せない中国のスクラップ輸出」(その3)

発行 2017 年 11 月 6 日 (月)

住所 〒300-1622 茨城県北相馬郡利根町布川 253-271

発行者 (株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一

<http://srr.air-nifty.com/home/> e-mail s.r.r@cpost.plala.or.jp